

ミツキーマウスやくまの  
ブーさんの絵が病棟に並  
ぶ。だが、ガラス越しの窓  
内は無人。箱形の保育器が

岡山大病院産科婦人科の平松祐司教授(五七)は、厳しい“台所事情”をこう打ち

「いつかポツンと置いてあるだけだ。

全国的な産科医不足に加え、二〇〇四年度から新臨

市街地を一望できる丘に  
建つ福山市民病院（同市  
王町）。使用されていない  
新生児室の前で、小川雅朗  
事務部長が無念そうに言  
う。

学の入居者は減少した。井原市民病院（井原市）のよう  
うに大学側から新たな医師派遣ができず、産科の休止  
に追い込まれたところもある。

同病院の産婦人科は昨年四月から分娩を休止した。医師の派遣元の岡山大病院（岡山市鹿田町）が産婦人科医二人を引き揚げ、代わりに医師不足の市北部に幸町上岩成（福山市御幸町上岩成）へと集約化したためだ。

「集約化」の狙いは、医師を特定の病院に集めて過酷な労働環境を改善し、安全な医療を提供することだ。同大では五年前から常勤医一人の病院を中心に実施。医師を引き揚げた平病院（岡山県和気町）、倉敷リバーサイド病院（倉敷

「医師を派遣しようにも、  
いないものはどうしようも  
ない」

県土庄町)、因島総合病院  
(尾道市)では相次いで産科が消えた。

## ④集約化



使用されていない福山市民病院の分娩室。再開のめどは立っていない

「産科医が疲弊し、産科はやむを得ない」と平松教授。それでも、集約化され

た地域では、問題も残る。

つい」。同センターの山本  
暖産科部長(四八)はこぼす。

福山市民病院は広島県東部で唯一、重篤患者を受け入れる三次救急施設。産後の大出血など生命の危険を伴う産婦人科手術を数多く手掛けてきた。

「集約化は仕方ないと思  
うが……」。福山市民病院の  
浮田實院長はそう前置きし  
た上で言う。

休止に伴い、お産の救急は国立病院機構福山医療センター（同市沖野上町）の医師四人がすべて担うことになった。

めて五十万人の医療圏。それだけの地域で自己完結できず、遠方の医療機関に頼らないといけないのは、患者さんにとつても大きな問

たか・福山・府中地域保  
建対策協議会（地元団体）

題だ

健文策協議会（地元産科医や保健所で構成）によると、昨年四一八月に救急搬送した六十七件のうち、同センターに運ばれたのは四十一件。四割弱が倉敷中央病院（倉敷市）など市外の病院へ送られた。

同病院は岡山大へ引き続  
き医師派遣を要請。独自に  
市出身の医師に接触して交  
渉するなど産科の再開を目  
指している。

「今のマンパワーですべてを受け入れるのは正直き

い。解決の道筋は見えてこな

# 医療崩壊防ぐ窮余の策